

アレルギー検査結果に疑問をお持ちの方へ

ご自身の自覚される症状と、今回の検査結果が違って違和感を感じられることもあると思います。いくつか、医学的な理由及び限界があるのですが、以下の内容をご確認ください

A. 花粉—食物アレルギー症候群

花粉症患者が、野菜や果物を生で食べた時に唇・口・喉などにイガイガ感やかゆみ・腫れなどアレルギー症状を引き起こすことがあります (Pollen-Food Allergy Syndrome-PFAS)。これは、花粉症の原因物質と似た物質が果物等の食物に含まれているから起こると言われています。思い当たる食物でアレルギー反応が出ていなかったとしても、花粉にアレルギー反応が出ている場合、下記の食物でアレルギー症状が発生することがあります

- 【シラカバ】りんご、洋梨、さくらんぼ、キウイ、マンゴー
- 【スギ】トマト等
- 【オオアワガエリ】メロン、スイカ、トマト、じゃが芋、キウイ、オレンジ、ピーナッツ等
- 【ヨモギ】セロリ、ニンジン、マンゴー等

B. ラテックス—フルーツ症候群

同様に、ラテックスアレルギーのある方は、30-50%の患者さんに、アボカド、クリ、バナナ、キウイに対するアレルギーを発症することがあります。

C. 現時点での検査の限界

今回検査を行った項目は、約40項目です。現在、特異的IgEを調べられる項目は約200個程度あります。一方、世の中には数万、数十万というアレルギーを起こしうる物質が存在しており、すべての項目について検査を行うことは現実的に不可能です。症状があるということは、何らかのアレルギー症状が発生していると考えられますが、残念ながら今回の検査で行った項目の中に、原因物質は認められなかったと考えられます

D. アレルギーのタイプの違い

アレルギーには、IgEの関与があり蕁麻疹等を引き起こすI型（即時型）アレルギーから、接触性皮膚炎等の症状を引き起こすIV型（遅延型）アレルギーまで、4つのタイプが存在します。ご自身の症状が、IV型アレルギーから来る場合、今回の特異的IgE検査では原因物質を見つけることができませんので、このタイプの違いが原因である可能性があります。